



高本さんが指導する樹林気功で、心も体もリラックス

家族で満喫、小田深山の大自然 「小田深山ネイチャーランド2016」

夏休みの1日を豊かな自然の中で過ごそうと「小田深山ネイチャーランド2016」(同実行委員会主催、高本師津雄実行委員長)が8月21日、小田深山溪谷で開かれました。「樹林気功」や「安芸貞測探険ボート」など自然の中で遊ぶ5つのアトラクションに、家族連れなど7組30人が参加。樹林気功では自然のエネルギーを感じながら、体いっぱい森の空気を吸い込んでいました。



たいまつが幻想的な情景を浮かべる

地域の五穀豊穡を願って 町内各地で伝統の「虫送り」

五十崎の上宿間地区などに伝わる虫送りが8月21日、柿原川周辺などで行われました。この伝統行事では農作物の害虫を焼いて、その年の豊作を願います。集まった住民はたいまつを手に、田んぼのあぜ道や堤防を練り歩きました。また大久喜地区の大師堂では、踊り念仏保存会の10人が踊り念仏を行い、地域の無病息災や五穀豊穡、家内安全を祈りました。



1_首里城守礼門の前で。そろいのTシャツは、友好の証として宜野座村から贈られたもの 2_小田川で遊んだ後は、鮎づくしの昼食。仲良しになった両町村のリーダー、大木くん(左)と仲榮眞菜大くん(右)

昭和48年から続く姉妹町村の交流—— 子どもたちが互いのまちで思い出づくり

「第27次宜野座村親善訪問交流事業」が7月下旬～8月下旬にかけて行われ、両町村の小学生などが交流を深めました。

同事業は旧五十崎町と沖縄県宜野座村との間で姉妹町村協定が締結されたのをきっかけに始まり、昭和48年から続いています。今年は7月30日～8月2日に内子町の訪問団(城戸彰団長他、8人)が宜野座村を訪れ、ちな陶房でシーサー作り体験や美ら海水族館の見学などを行いました。また8月23～26日には宜野座村の訪問団(仲村渠梨奈団長他、8人)が来町し、笠取山のハイキングや小田川の川遊びなどを体験しました。

参加者はさまざまな活動やホームステイを通じて、文化の違いや互いの地域の良さを学びました。内子町訪問団のリーダーを務めた大木雄斗くん(石畳小6年)は「海水浴や漢那ダム祭りなど、楽しい思い出がいっぱいできた。新しい友達との交流を続けて、また沖縄に行きたい」と話していました。

福島県と内子町の子どもが舞台上で共演 KAWAMURA BAND内子座コンサート

サザンオールスターズのトリビュートバンドとして活躍するKAWAMURA BANDが7月30日、内子座コンサート(同実行委員会主催)を開きました。同バンドは東日本と熊本の震災復興のため、精力的に活動しています。今公演では、福島県相馬市の子どもたちを内子座に招待。バックダンサーとして内子町の子どもたちと共演し、元気な姿でコンサートを盛り上げました。



派手な演出で盛り上がる会場

一糸乱れぬ隊列と旋律で観客を魅了 大洗高校マーチングバンド部が演奏会

茨城県立大洗高校のマーチングバンド部「BLUE-HAWKS」の演奏会が8月4日、文化交流センタースバルで開かれました。全国でも高い評価を受けている同部は、国内を中心に年間100回前後の演奏活動をしています。今公演では13曲を披露。演奏しながら隊列を変える息の合った動きや、茨城県をPRするために毎回披露する「水戸黄門のテーマ」などで観客を楽しませました。



鮮やかに隊列を変える「BLUE-HAWKS」の皆さん

石畳の水車が涼感を誘う—— 食べたり飲んだり御勝手な祭り

「第1回御勝手祭」(石畳地区小さな拠点づくり検討会主催、山田定会長)が8月11日、石畳清流園で開かれました。参加者は石畳の湧き水と羽釜で炊いたご飯を味わったり、水車の横に作られた川床で涼をとったりして思い思いに過ごしていました。山田会長は「ここにあるものをあるがままに自分たちも楽しみたい。皆さんも、どうぞ御勝手に楽しんで」と笑顔でした。



特別に作られた川床で涼をとる参加者

お盆は「みそぎ夏まつり」に集まろう 旧校舍に響く子どもたちの笑い声

「第3回みそぎ夏まつり」(御祓自治会主催、金元善昭自治会長)が8月15日、旧御祓小学校で開かれました。地域の人たちが集まるイベントにしようと、3年前から盆踊りの内容を変更。近くの自治会や元気な集落づくり応援団なども協力し、祭りを盛り上げています。金元会長は「学校がなくなり、子どもたちと集まる機会が減った。今日は元気な姿が見られて良かった」と喜びました。



ウナギや鮎を追いかける子どもたち